平成 29 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「実践ケア賞」

おれんじドア

【設立年月日】2015 年 2 月

【授賞理由】

貴会が実践する認知症の人が認知症の人の相談を受けるという先駆的な取り組みは認知症に対する誤った認識により自ら社会との接点を閉ざそうとする認知症の人に手を差し伸べる尊い活動といえます．まさに認知症の人が認知症の人にとっての希望となり得ることを社会に示したものであり，その役割は想像の域を遥かに超えたものといえます．

【団体概要】

「宮城の認知症をともに考える会」の有志からなる実行委員会．当事者である丹野智文を代表とし，実行委員は個人の立場で参加している当事者，医療・介護に携わる多様な専門職や当事者活動の世話人などで構成され，目的を共有する自主組織である．

【事業活動】

「ご本人のための，もの忘れ総合相談窓口・おれんじドア」の定例開催

１）当事者の講和「認知症とともに生きること等ウェルカムメッセージ」

２）下記①②に分かれて同時進行

①本人ミーティング（当事者実行委員が司会進行）

②家族懇談（パートナー実行委員が司会進行）

３）参加者全員による振り返り

【業績等】

早期診断・早期絶望といわれる診断後の空白の期間の「出会い」を支えるとともに，さまざまな支援情報を提供する「認知症とともに生きる入口のドア」とすること．

①当事者による当事者のための相談．

②来訪した本人の希望に添いながら居場所（当事者活動の場）につなげること．

③同行した家族や支援者に前向きになってもらうこと．

認知症と出会った人たちの「希望の入口」となるよう，元気を取り戻した当事者とともに．「おれんじドア」を長く継続すること．また，訪れた人たちの声を丁寧に聞きながら，認知症とともによりよく暮らせるまちにしていくために活動している．